

(3) 授業研修グループ

【要約】

研修グループでは、大きく二つの内容を軸に活動を行った。一つは、昨年度から本学の課題として挙げられている ICT 教育及びその環境の充実に向けた取組である。学生個々の ICT スキル向上が第一の目的であり、第二に新たな ICT 教育環境を利用した教員側のスキル向上を目指すものであった。二つは、学生の学校満足度や学校生活状況に関する調査を行い、学習の成果の指標の一つである GPA (Grade Point Average) との関連を検討した。この取り組みは、昨年度に担任 CA 会から提出された学生の入試種別と GPA を関連づけた調査を発展させた取組である。短期間での初の試みであったが、大学生生活満足度の向上、キャリア教育の充実、学力の向上を考えるための有益な情報を把握することができた。

1) はじめに

昨年度の FD 報告書において報告済みであるが、ICT 教育の充実は本学における喫緊の課題の一つである。全教職員を対象としたアンケートによって、最低限の ICT スキルさえ習得できていない学生の実態が特に問題視されたのである。その解決策の一つが、CoLS のさらなる利用を促すことであった。例えば、CoLS を通したレポートの提出だとか、授業内での CoLS の利用などである。

本年度は新校舎建設に伴い、ICT 教育環境も充実が図られた。それは、学内無線ランや新たな CoLS 機能の追加などである。これを ICT 教育充実の好機と捉え、9 月の全体会議の際に CoLS 全般を開発・管理するインターレクト社を招き、CoLS 研修会を実施した。

2) CoLS 研修会

インターレクト社 (担当: 石川智恵) を招き、下記のような目的・内容で CoLS 研修会を実施した。

① 目的

CoLS に新たに付け加えられた出席管理機能と、CoLS を利用した授業実践の工夫に関する紹介・提案を通して、教職員の CoLS に対する理解を深め、その習熟を目指す。



図 2. 研修会の様子

② 内容

研修会テーマは、「CoLS を使って活気のある授業を！ dotCampus 機能のご紹介」であり、インターレクト株式会社石川智恵が進行した。主な内容は、以下の 2 点である。

- ・ CoLS の出席管理機能について
- ・ CoLS を利用した授業実践の工夫について

③ 期日

平成 23 年 9 月 20 日（火）

以下、出席管理機能と授業実践の工夫それぞれの研修内容について、その概要を報告する。

・ CoLS による出席管理

平成 23 年度秋学期より、CoLS を利用した出席管理が出来るようになった。これにより、各自が携帯サイトから出席申請を容易に出来るだけでなく、代返などの不正を防止する機能が付き信頼性が向上した。こうして、出席確認作業で貴重な授業時間を無駄にしないですむようになったのである。また、成績との連携も可能となったので、授業と成績を結び付けて管理しやすくなったことは大きい。

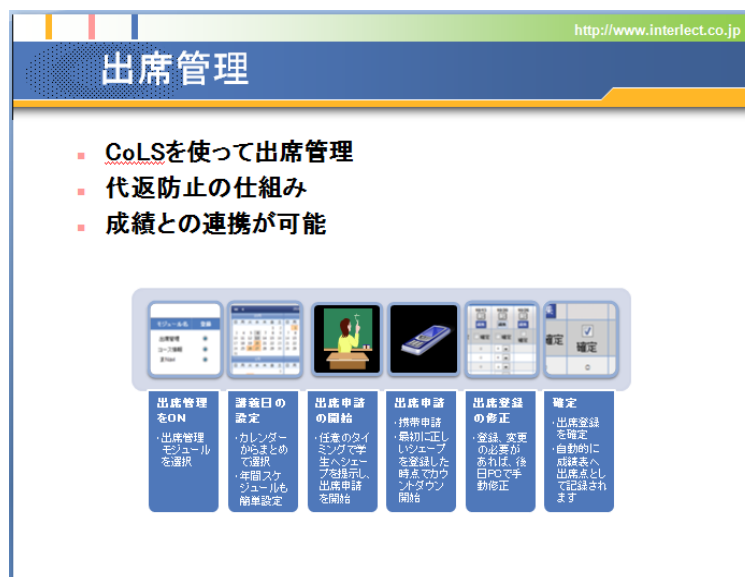


図 3. CoLS による出席管理の機能に関する説明

・ CoLS を利用した授業実践の工夫

「活気ある講義」を目指す工夫として、以下の 7 点について紹介・提案がなされた。

- ・ 集中力の維持…テスト機能を利用して、授業はじめの復習テスト・授業最後の確認テストなど理解の確認作業を入れる事により、集中力の維持を図る。

- ・ 学生ニーズの理解…テスト機能を利用した授業のはじめのプレテストと結果の確認により、学生のニーズや理解度を把握した上で授業を行う。
- ・ 学習の振り返り…アンケート機能を利用して、自己の取組について回答し振り返る。
- ・ 授業評価と講義の改善…授業評価アンケート機能を利用して、授業評価アンケートを実施し、講義の改善・活性化を行う。
- ・ 自己決定型の学習を促進…掲示板機能を利用して、実習中に感じた事や意見・疑問など掲示板でディスカッションし、講義でさらに理解を深める。
- ・ 質問への回答とフォロー…掲示板・配付資料の機能を利用して、質問受け付けと回答、また補足資料の配布・授業での補足説明を行い、理解を助ける。
- ・ 瞬時のプレゼンテーションフィードバック…アンケート機能を利用して、学生のプレゼンテーションに対する評価をその場で実施し、瞬時に集計。その結果を学生にフィードバックする。

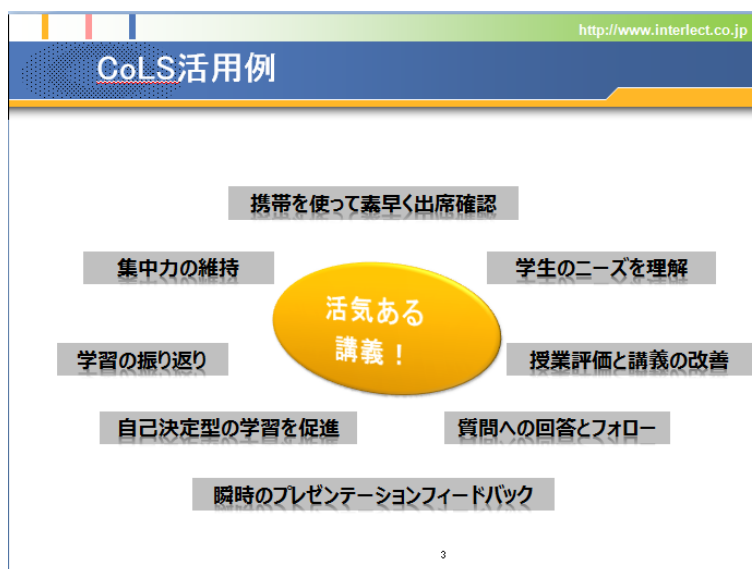


図 4. CoLS の活用例

以上の提案から実際の授業において下記のような授業実践の工夫をした。これらの試みは非常に有効で、学生と共に創り上げる講義・活気ある講義に寄与するものと考えられた。

- ・ 授業評価アンケートの実施と、その結果を学生と共有…11月に実施された授業評価をCoLSのアンケート機能を利用して実施し、翌週その結果をスクリーンに投影し、学生と共有しながら今後の改善点などを具体的に説明した。
- ・ プレテストとポストテスト…「子ども美術」において、アンケート機能を利用して美術に対する愛好度をはじめとした認識の度合いを授業前と授業後でとり、その結果を指導者自身の振り返りとして利用した。

3) 学生生活状況調査

本学学生の学生生活の状況を把握し、教育活動に活かすための視点を得ることを目的に調査を行った。また、学生生活の状況が学習活動の成果を示す指標の一つである GPA (Grade Point Average) とどのように関連するのかを検討した。尚、本年度においては試験的な取り組みであり、1、2年生のみを対象に実施した調査の結果を報告する。

① 方法

・対象者

平成 24 年 1 月下旬に CoLS のアンケート調査システムを用いてアンケート調査を行った。調査対象は、本学の 1 年生、2 年生の男女全員であった。有効回答数は 1 年生 206 名 (男性 70 名、女性 136 名)、2 年生 125 名 (男性 36 名、女性 89 名)、合計 331 名 (男性 106 名、女性 225 名) であった。

・調査項目

調査項目は、学生生活の状況に関する質問項目及び GPA であった。学生の生活状況に関する質問項目は、1. 「充実感 (生活場面)」、2. 「充実感 (学習場面)」、3. 「満足感 (生活場面)」、4. 「満足感 (学習場面)」、5. 「楽しさ (生活場面)」、6. 「楽しさ (学習場面)」、7. 「未来祭 (平成 23 年度) 準備への参加状況」、8. 「未来祭 (平成 23 年度) 当日への参加状況」、9. 「三フェス (平成 23 年度) 準備への参加状況」 (三フェスとは、大学で取り組んでいる学校行事の一つ「三幸フェスティバル」の略称)、10. 「三フェス (平成 23 年度) 当日への参加状況」、11. 「進路に対する熟考度」、12. 「進路希望の明瞭性」、13. 「アルバイトの実施日数 (日数/週)」、14. 「アルバイトの実施時間 (時間/日)」、15. 「アルバイトの実施時間帯」16. 「アルバイトの実施曜日」で構成された 16 項目あった (表 3 参照)。GPA は、1 年次より累積された GPA の値 (平成 23 年度春学期終了時点の値) を用いた。

・調査手続き

調査手続きは、まず CoLS に調査項目及び回答欄を設定した。各質問項目は、一つの画面上に一つの質問のみ提示されるように設定した。次に、キャンパス・アドバイザー (CA) が学生に対して実施方法に関する案内を行った。1 年生は「カレッジ・アンド・キャリアスキルズ」、2 年生は「キャリア・デザイン」の時間を用いて学生一人一人が自分の携帯電話を用いて CoLS に設定されたアンケート画面へアクセスを行い質問項目への回答を行った。

・ 分析方法

分析方法は、以下の手順で行った。①学生生活状況の各質問項目への回答及び GPA の分布を把握する（記述統計）。②学生生活状況の各質問項目の得点及び GPA を学年別（1年生、2年生）、専攻別（心理専攻、保育・教育専攻）、性別（男性、女性）で比較した（t検定）。③学生生活状況の各質問項目の得点及び GPA の関連を学年別（1年生、2年生）、専攻別（心理専攻、保育・教育専攻）、性別（男性、女性）で検討した（相関分析）。

表 3. 本調査に用いた質問項目及び得点化の方法

No.	質問内容	質問項目	回答方法	得点化
1	充実感(生活場面)	未来大での生活は	A.とても充実している B.まあまあ充実している C.あまり充実していない D.全く充実していない	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
2	充実感(学習場面)	未来大での学習は	A.とても充実している B.まあまあ充実している C.あまり充実していない D.全く充実していない	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
3	満足度(生活場面)	未来大の生活には	A.とても満足している B.まあまあ満足している C.あまり満足していない D.全く満足していない	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
4	満足度(学習場面)	未来大の学習には	A.とても満足している B.まあまあ満足している C.あまり満足していない D.全く満足していない	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
5	楽しさ(生活場面)	未来大での生活は	A.とても楽しい B.まあまあ楽しい C.あまり楽しくない D.全く楽しくない	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
6	楽しさ(学習場面)	未来大での学習は	A.とても楽しい B.まあまあ楽しい C.あまり楽しくない D.全く楽しくない	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
7	未来祭(2011年度)準備への参加状況	未来祭の準備には	A.とても積極的に参加できた B.まあまあ積極的に参加できた C.あまり積極的に参加できなかった D.全く積極的に参加できなかった	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
8	未来祭(2011年度)当日への参加状況	未来祭の当日には	A.とても積極的に参加できた B.まあまあ積極的に参加できた C.あまり積極的に参加できなかった D.全く積極的に参加できなかった	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
9	三フェス(2011年度)準備への参加状況	三フェスの準備には	A.とても積極的に参加できた B.まあまあ積極的に参加できた C.あまり積極的に参加できなかった D.全く積極的に参加できなかった	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
10	三フェス(2011年度)当日への参加状況	三フェス当日には	A.とても積極的に参加できた B.まあまあ積極的に参加できた C.あまり積極的に参加できなかった D.全く積極的に参加できなかった	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
11	進路に対する熟考度	将来の就職・進学について	A.よく考えている B.まあまあ考えている C.あまり考えていない D.全く考えていない	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
12	進路希望の明瞭性	将来の就職・進学について	A.希望はとてもはっきりしている B.希望はまあまあはっきりしている C.希望はあまりはっきりしていない D.希望は全くはっきりしていない	A: 4点 B: 3点 C: 2点 D: 1点
13	アルバイト日数(日数/週)	あなたは、一週間あたりどの程度の日数アルバイトをしていますか?	A.アルバイトはしていない B.1-2日 C.3-4日 D.5-6日 E.毎日	A: 1点 B: 2点 C: 3点 D: 4点 E: 5点
14	アルバイト時間(時間/日)	あなたは、一日あたりどの程度の時間アルバイトをしていますか。(曜日によって違いがあれば、平均的な時間を回答して下さい)	A.アルバイトはしていない B.1-2時間 C.3-4時間 D.5-6時間 E.7-8時間 F.8時間以上	A: 1点 B: 2点 C: 3点 D: 4点 E: 5点 F: 6点
15	アルバイトを実施する時間帯	あなたは、主にどのような時間帯にアルバイトをしていますか?(曜日によって違いがあれば、頻繁にアルバイトをする時間帯を回答して下さい)	A.アルバイトはしていない B.6時~10時 C.12時~14時 D.14時~18時 E.18時~22時 F.22時以降	— — — — — —
16	アルバイトを実施する曜日	あなたは、主にどのような曜日にアルバイトを実施していますか	A.アルバイトはしていない B.授業のある平日のみ C.授業のない平日のみ D.土日祝日のみ E.平日・土日祝日の両方	— — — — —

② 結果と考察

1. 学生生活の状況の把握

まず、本調査対象における全体の傾向を把握するため、学生生活状況の各質問項目への回答及び GPA の分布（割合）を算出した。その結果、充実感では、生活場面で約 8 割の者、学習場面では約 7 割の者が充実していると回答した（図 5、図 6）。満足感では、生活場面、学習場面ともに約 8 割の者が満足していると回答した（図 7、図 8）。楽しさでは、生活場面において約 8 割の者、学習場面において約 7 割の者が楽しいと回答した（図 9、図 10）。概ね、7 割から 8 割程度の学生が学校生活に満足している状況がうかがえた。

未来祭への参加状況では、準備、当日ともに約 8 割の者が積極的に参加できたと回答した（図 11、図 12）。三フェスへの参加状況では、準備において約 8 割の者、当日において約 9 割の者が積極的に参加できたと回答した（図 13、図 14）。この結果は、学校行事を教育の重要な柱の一つとして位置づけている本学の状況を反映したものであろう。

進路に関する項目では、進路に対する熟考度において、約 8 割の者が進路に対して考えていると回答した（図 3-15）。また、進路希望の明瞭性において、進路の希望がはっきりしていると回答した者は約 6 割であった。（図 3-16）。現段階において、進路希望がはっきりしていない状況は、1、2 年生の結果を反映したものと考えられる。

アルバイトの実施状況では、約 8 割の者がアルバイトを行っているという回答した。1 週間当たりのアルバイト日数においては、3 日～4 日行っている者が約 5 割で最も多かった（図 3-17）。1 日当たりのアルバイト時間においては、5～6 時間行っている者が約 4 割で最も多かった（図 3-18）。アルバイトの時間帯においては、18 時～22 時の間に行っている者が約 5 割で最も多かった（図 3-19）。アルバイトの曜日においては、平日と土日祝日を組み合わせで行っている者が約 6 割を占めていた（図 3-20）。今回の調査では、1 日当たり平均して 7 時間以上アルバイトを行っている者が 16% 存在すること、深夜 22 時以降にアルバイトを行っている者が約 1 割存在することが明らかとなった。1、2 年生の授業数の多さを考慮すると、長時間のアルバイトや深夜のアルバイトは授業への出席や学習活動に差し支える可能性が推察されるため、注視していく必要があるだろう。

GPA では、3.6 以上の得点を取得している者が約 4 割存在することが明らかとなった。一方で、GPA が 3.0 に届かない者が 2 割存在することも確認された（図 3-21）。そのため、1、2 年生という比較的早い段階において、学業成績が高い者と低い者の 2 極化が生じていることがうかがえる。学生全体の学業成績の向上を目指すためには、この 2 極化現象がどのような要因によって生じているのか、またどのような時期に発生してくるのかを明らかにしていく必要があるだろう。

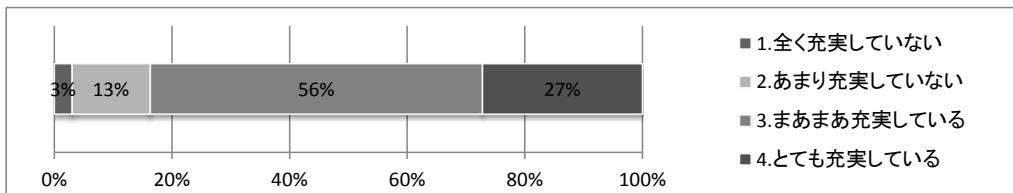


図 5. 充実感（生活場面）における各回答の割合

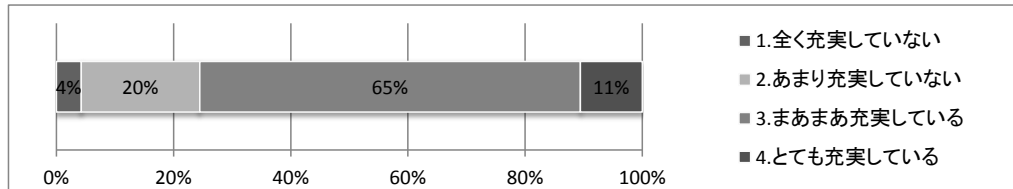


図 6. 充実感（学習場面）における各回答の割合

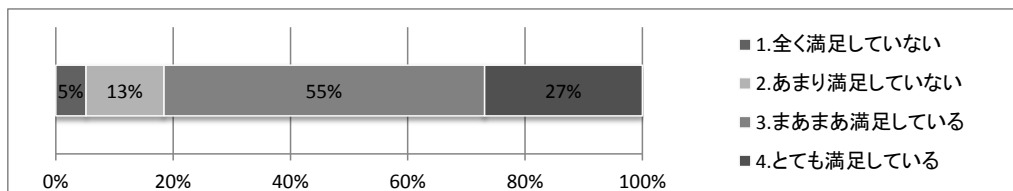


図 7. 満足感（生活場面）における各回答の割合

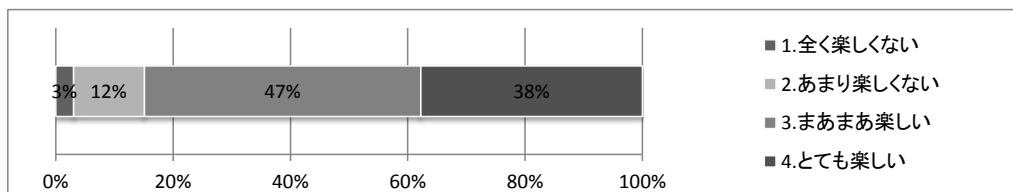


図 8. 満足感（学習場面）における各回答の割合

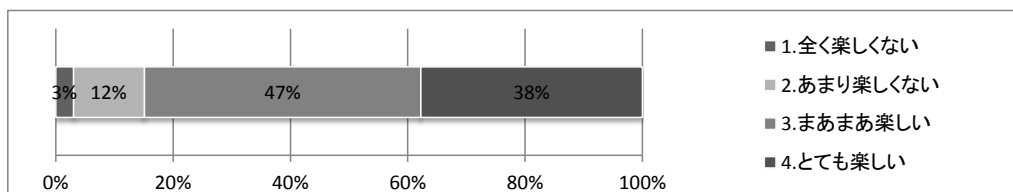


図 9. 楽しさ（生活場面）における各回答の割合

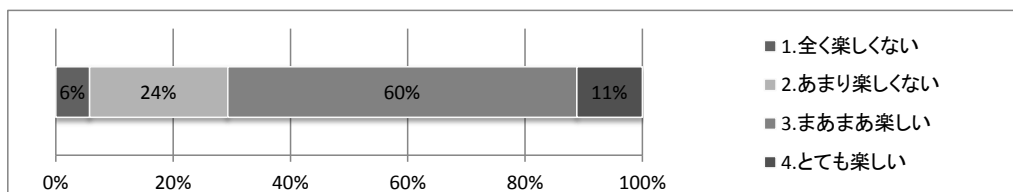


図 10. 楽しさ（学習場面）における各回答の割合

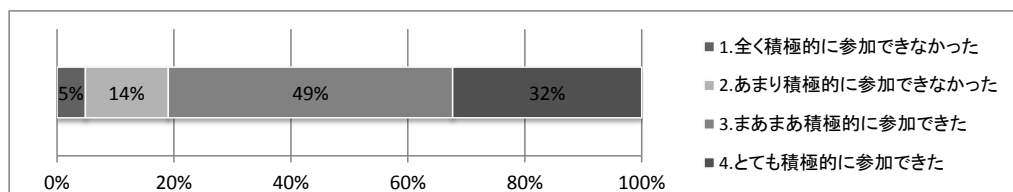


図 11. 未来祭への参加状況（準備）における各回答の割合

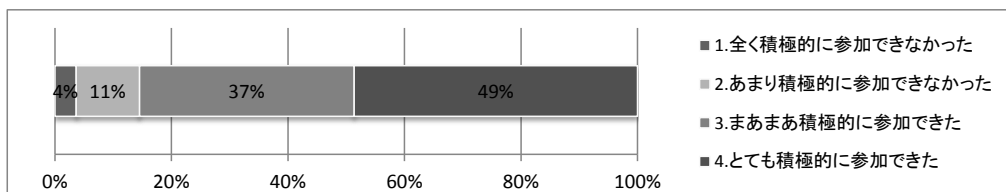


図 12. 未来祭への参加状況（当日）における各回答の割合

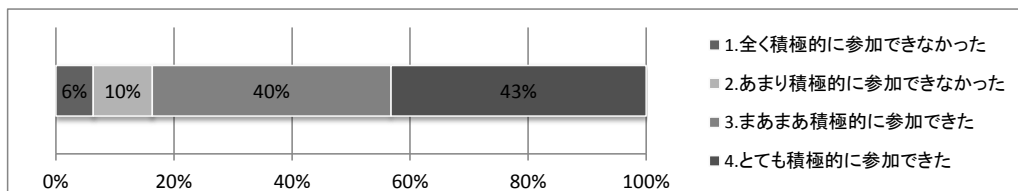


図 13. 三フェスへの参加状況（当日）における各回答の割合

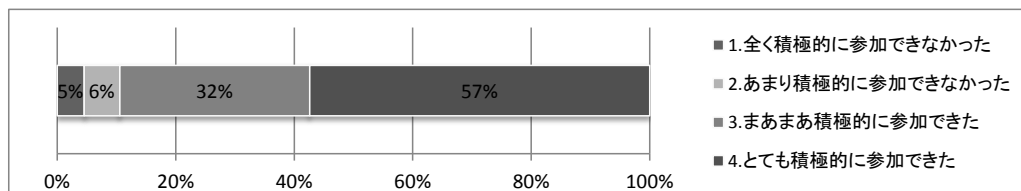


図 14. 三フェスへの参加状況（当日）における各回答の割合

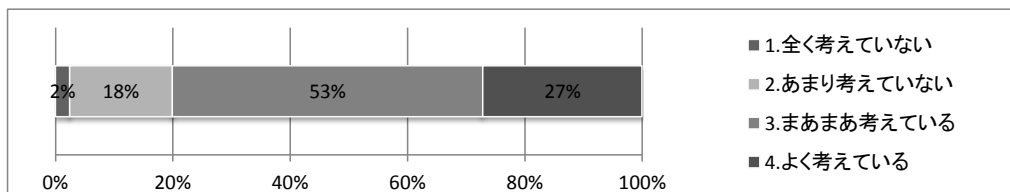


図 15. 進路に対する熟考度における各回答の割合

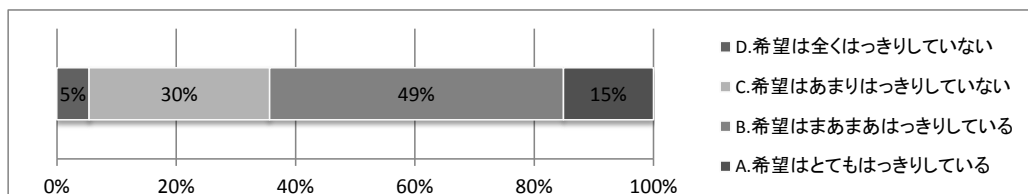


図 16. 進路希望の明瞭性における各回答の割合

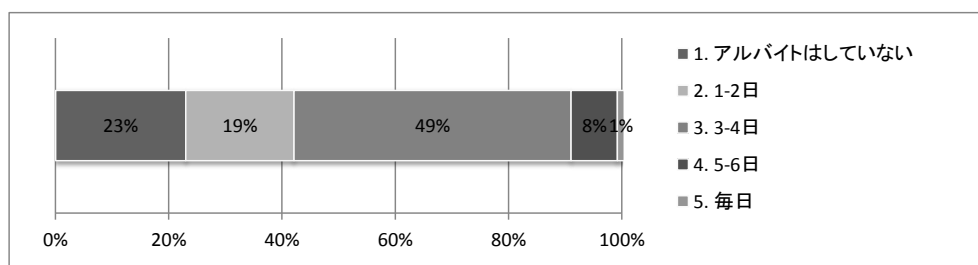


図 17. アルバイト日数（日数／週）における各回答の割合

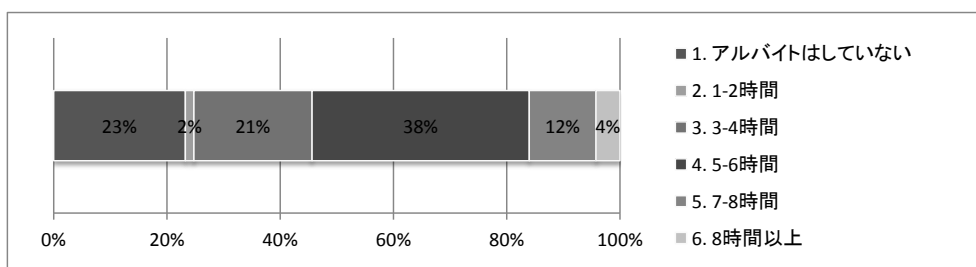


図 18. アルバイト時間（時間／日）における各回答の割合

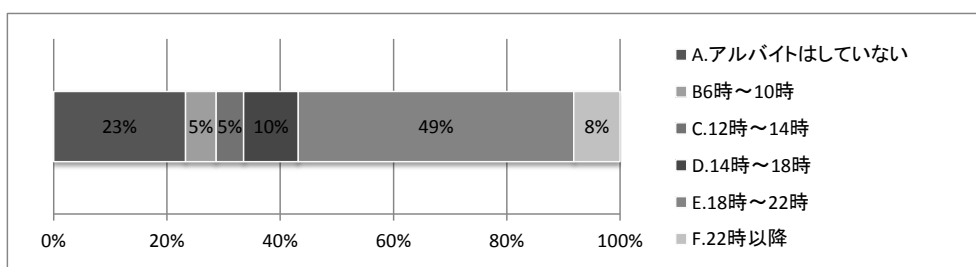


図 19. アルバイトの時間帯における各回答の割合

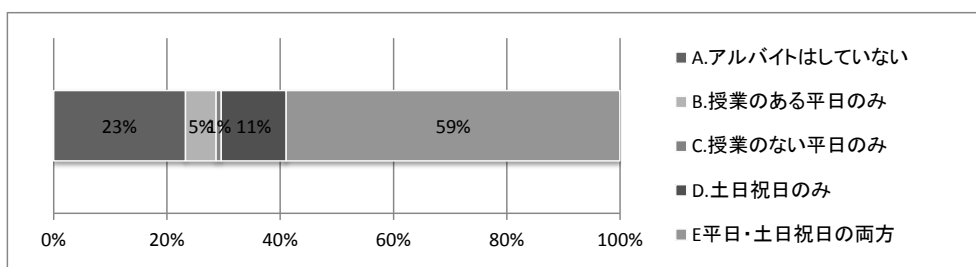


図 20. アルバイトの曜日における各回答の割合

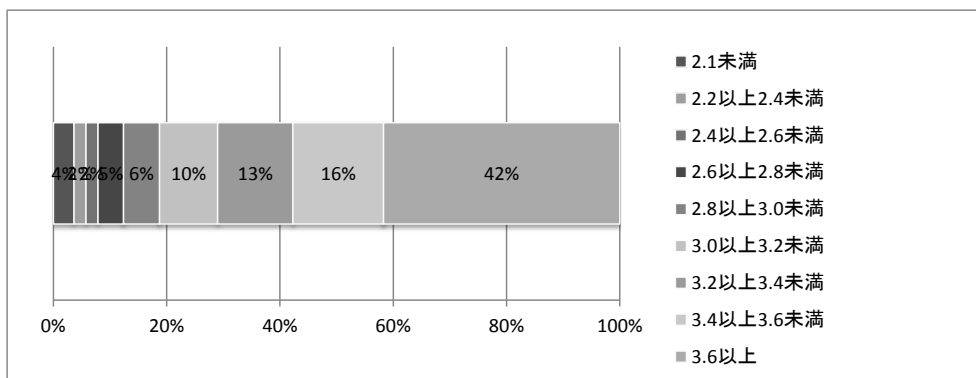


図 21. GPA における各得点範囲の割合

2. 学生生活の状況の学年別、専攻別及び性別での比較

学生生活の状況（1～14の質問項目）が学年別（1年生、2年生）、専攻別（心理専攻、保育・教育専攻）、性別（男性、女性）で異なるのか否かを検討するため、学生生活の状況を示す質問項目の得点を学年別、専攻別、性別で比較した（*t*検定）。その結果、学年別では、充実感、満足度、未来祭への参加状況、三フェスへの参加状況、進路希望に対する熟考度、進路希望の明瞭性、GPA値においては統計的に有意な差が確認されなかった。特に、進路に対する熟考度や進路に対する明瞭性に学年差がない所をみると、2年生になった段階においても進路に対しての意識があまり高まっていない可能性がうかがえる。

また、アルバイトの実施状況では、1週間当たりのアルバイト実施日数において統計的に有意な差が確認され、1年生よりも2年生の方が値を示した。また、1日当たりのアルバイト時間においても統計的に有意な差が確認され、1年生よりも2年生の方が高い値を示した。これらの結果は、1年生よりも2年生の方が1週間当たりのアルバイト日数が多いこと、一日当たりのアルバイトを実施する時間が長いことを示している（表4）。今夏の調査では、対象者が1年生と2年生であったため3年生や4年生の現状までは把握しきれないが、少なくとも1年生と2年生ではアルバイトの実施状況が異なる現状が確認された。

表4. 学年別（1年生、2年生）の学生生活状況の比較

No.	質問内容	1年生 (N=206)		2年生 (N=125)		t-value
		M	SD	M	SD	
1	充実感(生活場面)	3.09	0.75	3.06	0.68	0.44
2	充実感(学習場面)	2.83	0.66	2.81	0.68	0.23
3	満足度(生活場面)	3.08	0.75	2.96	0.82	1.33
4	満足度(学習場面)	2.82	0.62	2.75	0.71	0.85
5	楽しさ(生活場面)	3.19	0.76	3.21	0.77	0.22
6	楽しさ(学習場面)	2.74	0.69	2.79	0.78	0.60
7	未来祭への参加状況(準備)	3.08	0.80	3.09	0.82	0.06
8	未来祭への参加状況(当日)	3.35	0.74	3.22	0.91	1.43
9	三フェスへの参加状況(準備)	3.17	0.85	3.26	0.89	0.96
10	三フェスへの参加状況(当日)	3.46	0.74	3.37	0.88	0.97
11	進路に対する熟考度	3.01	0.72	3.10	0.77	1.07
12	進路希望の明瞭性	2.79	0.76	2.66	0.80	1.39
13	アルバイト日数(日数/週)	2.35	1.03	2.62	0.86	2.37 *
14	アルバイト時間(時間/日)	3.07	1.52	3.59	1.28	3.22 **
	GPA値	3.39	0.49	3.39	0.47	0.02

M: mean, SD: standard deviation

*: $p < .05$, ** $p < .01$

専攻別では、充実感、満足度、楽しさ、未来祭への参加状況、アルバイトの実施状況において統計的に有意な差が確認されなかった。一方で、三フェスへの参加状況（当日）と進路に対する熟考度や進路に対する明瞭性、GPA 値において統計的に有意な差が確認され、心理専攻よりも保育・教育専攻の方が高い値を示した。特に顕著な差を示したのは進路希望の明瞭性であった。実際に、保育・教育専攻の学生は、将来の職業を見据えて大学に入学してきていることを考慮すれば当然の結果と言えよう（表 5）。

表 5. 専攻別（心理専攻、保育・教育専攻）の学生生活状況の比較

No.	質問内容	心理専攻 (N=136)		保育・教育専攻 (N=195)		t-value
		M	SD	M	SD	
1	充実感(生活場面)	3.06	0.74	3.09	0.71	0.41
2	充実感(学習場面)	2.80	0.68	2.83	0.66	0.39
3	満足度(生活場面)	3.05	0.84	3.02	0.74	0.35
4	満足度(学習場面)	2.80	0.69	2.78	0.64	0.23
5	楽しさ(生活場面)	3.11	0.81	3.26	0.72	1.72
6	楽しさ(学習場面)	2.76	0.75	2.76	0.70	0.07
7	未来祭への参加状況(準備)	2.99	0.84	3.15	0.78	1.87
8	未来祭への参加状況(当日)	3.28	0.80	3.32	0.81	0.48
9	三フェスへの参加状況(準備)	3.15	0.88	3.24	0.85	0.90
10	三フェスへの参加状況(当日)	3.31	0.81	3.50	0.78	2.18 *
11	進路に対する熟考度	2.95	0.79	3.12	0.69	2.07 *
12	進路希望の明瞭性	2.51	0.80	2.90	0.72	4.69 **
13	アルバイト日数(日数/週)	2.44	1.02	2.46	0.95	0.19
14	アルバイト時間(時間/日)	3.15	1.41	3.35	1.49	1.24
	GPA値	3.31	0.57	3.44	0.40	2.55 *

M: mean, SD: standard deviation

*: $p < .05$, **: $p < .01$

男女別では、充実感、満足度、楽しさ、未来祭への参加状況、三フェスへの参加状況、アルバイトの実施状況において統計的に有意な差が確認されなかった。一方で、進路に対する熟考度と GPA 値において統計的に有意な差が確認され、男子学生よりも女子学生の方が高い値を示した（表 6）。この結果は、女子学生の方が男子学生に比べて将来に対してよく考えていることを示している。進路に対する熟考度は就職活動への取り組み方に関わることが予想されるため、男子学生の進路に対する興味をどのように引き出すかが今後求められるであろう。また、GPA 値に差が存在することは男子学生と女子学生において学習の成果に差があることを示している。男女で相対的に GPA 値に差が生じる原因は断定できないが、先に挙げた将来への見通しを持ってないことがその一因として考えられる。そのため、今後進路への意識を高めて行く取り組みと GPA 値を全体的に向上させていく取り組みが求められる。

表 6. 性別（男性、女性）の学生生活状況の比較

No.	質問内容	男性 (N=106)		女性 (N=225)		t-value
		M	SD	M	SD	
1	充実感(生活場面)	3.14	0.75	3.05	0.71	1.09
2	充実感(学習場面)	2.73	0.75	2.86	0.62	1.73
3	満足度(生活場面)	3.08	0.85	3.01	0.75	0.68
4	満足度(学習場面)	2.72	0.77	2.83	0.60	1.42
5	楽しさ(生活場面)	3.25	0.78	3.17	0.76	0.80
6	楽しさ(学習場面)	2.72	0.86	2.78	0.65	0.77
7	未来祭への参加状況(準備)	3.18	0.88	3.04	0.77	1.46
8	未来祭への参加状況(当日)	3.29	0.89	3.31	0.76	0.20
9	三フェスへの参加状況(準備)	3.15	0.93	3.23	0.83	0.79
10	三フェスへの参加状況(当日)	3.40	0.84	3.44	0.78	0.42
11	進路に対する熟考度	2.88	0.85	3.13	0.67	2.93 **
12	進路希望の明瞭性	2.74	0.90	2.74	0.72	0.07
13	アルバイト日数(日数/週)	2.51	1.03	2.43	0.96	0.72
14	アルバイト時間(時間/日)	3.29	1.48	3.25	1.45	0.23
	GPA値	3.16	0.54	3.49	0.42	6.20 **

M: mean, SD: standard deviation

*: $p < .05$, **: $p < .01$

3. 学生生活の状況と GPA 値との関連

次に、学生生活の状況と GPA 値との関連を検討するために、学生生活の状況の各項目得点と GPA 値との相関係数を学年別、専攻別、および性別に算出した。その結果、学年別において、1 年生では進路に対する熟考度および進路希望の明瞭性と GPA 値との間に、2 年生では充実感（生活場面、学習場面）、満足度（生活場面、学習場面）、楽しさ（生活場面、学習場面）、および三フェスへの参加状況（準備）と GPA 値との間に有意な相関が認められた。これは、1 年生においては進路に対する意識の高さと GPA 値の高さは関連するが、学生生活の充実感など他の項目と GPA 値とはいずれも関連しないことを示している。しかしながら、本調査において用いた 1 年生の GPA 値が春学期のみの値であることを考慮すると、入学時の進路に対する意識の高さに比べ、入学後数か月間の学生生活状況と GPA 値とは関連しにくい可能性のあることが考えられる。一方、2 年生においては生活場面や学習場面における充実感、満足度、楽しさ、および三フェス準備参加への積極性の高さと GPA 値の高さは関連するが、未来祭参加への積極性、三フェス当日参加への積極性、進路に対する意識の高さ、アルバイトの実施状況と GPA 値とは関連しないことを示している（表 7）。

表 7. 学年別の学生生活状況と GPA 値との関連

No.	質問内容	1年生	2年生
		<i>N</i> =206	<i>N</i> =125
		<i>r</i>	<i>r</i>
1	充実感(生活場面)	0.03	0.20 *
2	充実感(学習場面)	0.12	0.28 **
3	満足度(生活場面)	-0.06	0.24 **
4	満足度(学習場面)	0.10	0.23 *
5	楽しさ(生活場面)	0.03	0.19 *
6	楽しさ(学習場面)	0.07	0.27 **
7	未来祭の準備への参加状況	0.08	0.10
8	未来祭の当日への参加状況	0.05	0.08
9	三フェスの準備への参加状況	0.05	0.22 *
10	三フェスの当日への参加状況	0.10	0.05
11	進路に対する熟考度	0.19 **	0.10
12	進路希望の明瞭性	0.15 *	0.10
13	アルバイト日数(日数/週)	-0.05	-0.11
14	アルバイト時間(時間/日)	-0.08	-0.03

r: correlation coefficient *: $p < .05$, ** $p < .01$

また、専攻別において、心理専攻では充実感（学習場面）、満足度（学習場面）、楽しさ（学習場面）、および三フェスへの準備への参加状況と GPA 値との間に、保育・教育専攻では進路に対する熟考度および進路希望の明瞭性と GPA 値との間に有意な相関が認められた。これは、心理専攻においては学習場面における充実感、満足度、楽しさの高さと GPA 値の高さは関連するが、生活場面における充実感、満足度、楽しさ、未来祭参加への積極性、三フェス当日参加への積極性の高さ、およびアルバイトの実施状況と GPA 値の高さとは関連しないことを示している。一方、保育・教育専攻においては進路に対する意識の高さと GPA 値の高さは関連するが、学生生活の充実感など他の項目と GPA 値とはいずれも関連しないことを示している（表 8）。

さらに、性別において、男性では学生生活状況と GPA 値との間にいずれも有意な相関を認められなかったが、女性では充実感（学習場面）、満足度（学習場面）、楽しさ（学習場面）、および進路に対する熟考度と GPA 値との間に有意な相関が認められた。これは、男性においては学生生活状況の各項目と GPA 値とはいずれも関連しないことを示している。一方、女性においては学習場面における充実感、満足度、楽しさ、および進路に対する意識の高さと GPA 値とは関連するが、生活場面における充実感、満足度、楽しさ、未来祭参加への積極性、三フェス参加への積極性の高さ、およびアルバイトの実施状況と GPA 値の高さとは関連しないことを示している（表 9）。

表 8. 専攻別の学生生活状況と GPA 値との関連

No.	質問内容	心理専攻	保育・教育専攻
		<i>N</i> =136	<i>N</i> =195
		<i>r</i>	<i>r</i>
1	充実感(生活場面)	0.14	0.04
2	充実感(学習場面)	0.26 **	0.13
3	満足度(生活場面)	0.12	-0.01
4	満足度(学習場面)	0.20 *	0.10
5	楽しさ(生活場面)	0.12	0.05
6	楽しさ(学習場面)	0.23 **	0.07
7	未来祭の準備への参加状況	0.13	0.08
8	未来祭の当日への参加状況	0.11	0.07
9	三フェスの準備への参加状況	0.17 *	0.10
10	三フェスの当日への参加状況	0.10	0.11
11	進路に対する熟考度	0.12	0.20 **
12	進路希望の明瞭性	0.10	0.15 *
13	アルバイト日数(日数/週)	-0.05	-0.03
14	アルバイト時間(時間/日)	-0.04	-0.05

r: correlation coefficient *: $p < .05$, ** $p < .01$

表 9. 性別の学生生活状況と GPA 値との関連

No.	質問内容	男性	女性
		<i>N</i> =106	<i>N</i> =225
		<i>r</i>	<i>r</i>
1	充実感(生活場面)	0.07	0.08
2	充実感(学習場面)	0.18	0.18 *
3	満足度(生活場面)	0.05	0.06
4	満足度(学習場面)	0.15	0.15 *
5	楽しさ(生活場面)	0.08	0.09
6	楽しさ(学習場面)	0.14	0.15 *
7	未来祭の準備への参加状況	0.09	0.09
8	未来祭の当日への参加状況	0.07	0.06
9	三フェスの準備への参加状況	0.11	0.11
10	三フェスの当日への参加状況	0.08	0.08
11	進路に対する熟考度	0.15	0.15 *
12	進路希望の明瞭性	0.13	0.13
13	アルバイト日数(日数/週)	-0.06	-0.07
14	アルバイト時間(時間/日)	-0.05	-0.06

r: correlation coefficient *: $p < .05$, ** $p < .01$

学年別、専攻別、性別における学生生活状況と GPA 値との相関を求めた結果、2 年生と男性においては特有の関連性であったが、1 年生と保育・教育専攻、および心理専攻と女性において、同様の項目に関連性が認められた。しかしながら、それぞれ両者において同様の傾向が認められた要因については、本調査の結果から明らかにすることは困難であるため、今後さらなる調査が必要であると考えられる。

4. 調査のまとめ

本調査を通していくつかの示唆が得られた。まず、大学生生活状況と GPA 値の分布の分析及び学年別、専攻別、男女別の分析では、全体的に約 8 割の学生が学習場面や生活場面において充実感、満足感、楽しさを感じていることが明らかとなった。

また、アルバイトの実施状況からは、長時間のアルバイトを行う者や深夜 22 時以降にアルバイトを行う者の存在が浮き彫りとなった。彼らの充実した学生生活を支えていくためには、まずは過度なアルバイトの実施を見直し、生活リズムを整えていくことを指導していく必要があるだろう。また、このような問題を未然に防ぐためには、学年別の比較で明らかとなったように 1 年生から 2 年に上がる時に指導を行うことが重要であろう。

次に、GPA 値において男子学生が女子学生に比べて低いことが確認された。そのため、今後、全体的に GPA 値を底上げしていくためには、男子学生の学習をどのように支えていくかが教職員にとって重要な課題になると考えられる。また、彼らの学習の成果に影響を及ぼす要因を丁寧に探っていく必要があるだろう。

さらに、学年別、専攻別、性別において GPA 値と関連する学生生活状況における項目が明らかになったが、学生生活状況と GPA 値との関連における因果関係は示していない。そのため、今後は継続的な調査によって GPA 値に及ぼす学生生活状況の影響、あるいは学生生活状況に及ぼす GPA 値の影響について検証する必要がある、それらを学生に対する学習指導や生活指導に活かすことが重要であると考えられる。

最後に、本調査結果は以下の 3 つの点に配慮して結果を解釈する必要があるだろう。1 つは、本調査における調査対象者は 1 年生と 2 年生の全員ではなく、自主的に調査に参加した者のみであったことである。2 つは、調査の実施時期が秋学期の期末テストの時期と重なり、学生自身が平常時とは異なる状況で回答していることである。3 つは、携帯電話を用いて調査を行ったため不慣れた学生は回答がスムーズに行えなかったことである。これらの課題は、次回以降の調査において改善していく必要があるだろう。

4) 今後に向けて

平成 23 年度秋学期より、CoLS を利用した出席管理をいくつかの講義で実施したが、いくつかの問題点が浮上した。その中には、新校舎建設に伴って導入された機器やネット環境の不十分さや、CoLS 機能を利用する上で判明したシステム上の問題点によるものもあった。導入時には致し方ないことかも知れないが、環境を整える努力は継続的にする必要があるだろう。こうした予期せぬ不具合もあり、今年度は十分に CoLS と新校舎に整備された ICT 教育環境を十分に機能させられたとは言えない。まずは教職員側の習熟と、CoLS を利用した授業の工夫などの共有を図り、その上で学生のスキルアップを目指していく必要があるだろう。来年度は、教職員連絡協議会を利用して、ポイントを押さえたミニ研修会を企画していくなどの方策が望まれる。